			環境科学技術研究所						電源開発						日本原燃							
ID	氏名	所属機関	①知識の習得・正確性（実習を通じて学んだことを正しく理解しまとめている）	②取組に対する姿勢（レポートが正しい体裁できちんと書かれている）	③将来に向けた考察・工夫（自身の考えを述べている、将来に向けた議論をしている）	合計	合否	総評	①知識の習得・正確性（実習を通じて学んだことを正しく理解しまとめている）	②取組に対する姿勢（レポートが正しい体裁できちんと書かれている、自分の言葉、考えで書かれている）	③将来に向けた考察・工夫（自身の考えを述べている、将来に向けた議論をしている）	合計	合否	総評	①知識の習得・正確性（実習を通じて学んだことを正しく理解しまとめている）	②取組に対する姿勢（レポートが正しい体裁できちんと書かれている）	③将来に向けた考察・工夫（自身の考えを述べている、将来に向けた議論をしている）	合計	合否	総評	集計	合否
1			3	3	1	7	○		1	3	2	6	合格	・安全対策を概ね理解している。 ・具体例の記載がやや不足。	2	2	2	6	合格	必要な内容が簡潔にまとめた、読みやすい回答であった。 一方で、「上手く処理して」といったあいまいな表現であったり、サイクルの一部としてのウラン濃縮が省略されていたりと、やや不足も感じ取られるものであったため、評価に反映させている。	19	合格
2			3	2	1	6	○		3	3	3	9	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。 ・自身の考えを述べている。	2	3	2	7	合格	必要十分な内容が簡潔にまとめられている、よい回答であると評価した。 再処理部分のみを原子燃料サイクルであると解釈される方が多い中で、資源の採掘を含むフロント部分についても記述されており、よく学習されていることが確認できた。	22	合格
3			2	2	1	5	○		2	3	2	7	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を概ね理解している。	1	2	2	5	合格	おおまかな概要は触れられているが、少々不足を感じる回答であった。 例えば設問（1）であれば、再処理によって取り出される物質は何であるのかであったり、日本原燃が扱う事業はどの工程であるのかであったりといった点で、また設問（2）であれば軽水炉燃料の再処理法との比較も記述するといった点で、補足可能な部分は多い。	17	合格
4			3	2	1	6	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	3	3	2	8	合格	本回答では、設問（1）における「日本原燃の位置づけ」という箇所にて高い理解度を示されている。 また設問（2）では技術的な部分だけでなく核不拡散という側面からも再処理法の評価がなされており、よい記述であると言える。	22	合格
5			3	2	1	6	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	3	3	3	9	合格	設問（1）ではサイクルの工程を簡潔に、不足無く説明できている。 また、設問（2）は湿式再処理法の得失という問であったが、その工程の詳細に触れながら都度他手法との比較を行なっており、大変完成度の高い記述であるため、評価点とした。	23	合格
6			3	2	1	6	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	3	3	3	9	合格	全体的に不足の無い、良好な回答である。 特に設問（2）の回答では、湿式法の強みとして再処理後の製品（MOX燃料）に与える影響まで記述されており、評価点とした。	23	合格
7			3	2	1	6	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	2	2	3	7	合格	全体的に綻びの無い、丁寧な回答である。 特に設問（1）では、サイクルの意義や日本原燃の立ち位置という点についてよくまとめられており評価点とした。	21	合格
8			3	2	2	7	○		3	3	3	9	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。 ・自身の考えを述べている。	3	2	3	8	合格	サイクルの行程に関しては、他の回答と比較し特に正確な記述である（おそらく誤記と思われる記述（設問1　9行目）があるが、理解は正確であると判断）。 設問（2）に関しても要点を抑えた、よくまとまった記述であると評価。	24	合格
9			2	2	1	5	○		2	3	2	7	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を概ね理解している。	2	3	2	7	合格	サイクルに関して正しく理解されていることが伝わる回答である。設問（2）では、問いに対する回答として適切な仕方で記述されており、得失の比較が容易である。全体として完成度の高いレポートであるため、その分だけ将来の展望や批判的な議論が少ないことが惜しい。	19	合格
10			3	3	2	8	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	3	3	3	9	合格	設問（1）、（2）ともに、技術的な部分以上の記述があり、よく勉強していることがわかる。 特に設問2では、現在のPEREX法に至るまでの歴史を（各手法のリスクに触れつつ）振り返るような形で記述されており、こちらとしても学ばせていただくこととなった。	25	合格
11			2	2	1	5	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	2	2	2	6	合格	日本原燃の事業について、正確な理解が見られる。また、設問（2）に関しては、日本でPUREX法を行なう注意点としての核不拡散に触れており、当社にて見学していただいた成果として評価できる。	19	合格
12			3	2	1	6	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	1	2	2	5	合格	設問（1）、（2）ともに簡潔に要点を抑えることができており、初学者への説明としては（濃縮事業の記述漏れはあるが）必要十分である。 一方、サイクル内の各事業の概要や今後の展望など、重要な論点の多くが省略されており物足りない仕上がりとなっている。	19	合格
13			3	3	1	7	○		2	3	2	7	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を概ね理解している。	2	3	1	6	合格	設問（1）について、要点（サイクルを行なう意義）がよくまとめられている。当社各施設の概要、サイクル上の立ち位置に関する言及も欲しいところである。 全体を通して、今後の考察や展望といった視点が物足りない印象。より批判的な論述を為していただければと思う。	20	合格
14			3	3	1	7	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	1	2	3	6	合格	全体的な理解は十分であるが、設問（1）の回答において、高レベル放射性廃棄物の取り扱いに関する記述に誤りがある。 当社で管理する高レベル放射性廃棄物は発電所からでなく、再処理工場から発生するガラス固化体である。また、当社では高レベル廃棄物は埋設処分をしていない。 以上の点から減点を行なっている。	21	合格
15			3	2	1	6	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	3	3	2	8	合格	原子燃料サイクルについて、当社の中核事業となる再処理部分の理解はもちろん、ウラン資源の活用という大きなテーマにも触れて記述されていることを踏まえ、高い評価とした。 また、再処理法について、技術的な評価はもちろん核セキュリティという視点を取り入れている点を評価する。	22	合格
16			3	2	2	7	○		3	3	2	8	合格	・事実に即した基本事項が押さえられ、安全対策を理解している。	2	3	3	8	合格	設問（1）について、実際にご見学いただいた埋設地や高レベル放射性廃棄物貯蔵施設の現状の理解はよくできている。 設問（2）では簡潔かつ明瞭に記述されており、回答としての完成度は十分である。 また、再処理工場の現状と展望についても学んでいただいたようで、評価点とした。	23	合格
17			3	3	1	7	○		3	3	3	9	合格	・事実に即した基本事項、背景等が押さえられ、安全対策を理解している。 ・自身の考えを述べている。	3	3	3	9	合格	サイクルについて、その工程が明瞭にまとめられている。特に各事業の概要は正しい理解のもとまとめられているのがわかるよい記述である。 また、サイクルの意義としてエネルギーセキュリティという視点も把握しており、高い評価とした。 設問（2）についても幅広い手法について取り扱われており、よく勉強していただいることがわかった。 お手本となる素晴らしい回答である。	25	合格

各項目１点～３点で採点。
合計５点以上かつ集計15点以上で合格となります。
27点満点